

第4章 令和6年度施策の点検評価

《ミッション1》全てのこどもにとって「居心地のよい学校」をつくる

KPI:学校に行くのは楽しいと思うこどもの割合

<R5実績値> 小学生:83.8% 中学生:78.9%

	R6	R7	R8	R9	R10
目標	小学生:85.0% 中学生:80.0%	小学生:86.3% 中学生:81.3%	小学生:88.0% 中学生:83.0%	小学生:89.0% 中学生:84.0%	小学生:90.0% 中学生:85.0%
実績	小学生:84.1% 中学生:80.6%	—	—	—	—
評価 〔達成率〕	概ね順調 (小学生: 98.9% 中学生:100.8%)	—	—	—	—

(1)こどもを枠にはめず、一人ひとりのこどもの違いを尊重する

①「こどもまんなか」教育施策の推進

a 「北九州市こどもまんなか教育プラン」の策定

・教育大綱で示された「こどもまんなかで質の高い教育環境」の実現に向けて、オンラインの全校アンケートを通じて、こども等の意見を反映させた「北九州市こどもまんなか教育プラン」を令和6年8月に策定した。

＜オンラインアンケートの回答人数＞

	児童(小4～6)	生徒(中1～2)	教職員	保護者
回答人数	4,413人	2,536人	1,628人	11,880人

・こどもまんなか教育プランの浸透・実践のために、対話型の教職員研修として「先生カフェトーク」を全6回実施し、約100名が参加した。

次期教育プラン
検討会議



b 幼児教育水準の維持向上、幼児教育と小学校教育の円滑な接続

幼児教育センターにおいて公立・私立幼稚園を対象に、教育面からの支援に取り組んだ。

【幼児教育水準の維持向上(3つの支援)】

- ・教育内容を深める支援(幼児教育における調査・研究)
- ・人材を育成する支援(幼稚園教諭の資質向上)
- ・特別な配慮を要する幼児への対応力を身につける支援(特別支援教育)

＜派遣等件数＞ 訪問:228件 電話・来所相談:44件 合計:272件

【幼児教育と小学校教育の円滑な接続】

・就学前施設、小学校、特別支援学校の管理職および連携担当者等を対象に「保幼小連携研修会」を実施した。

＜研修会参加者数＞ 当日参加:472名 オンデマンド視聴:82名

(2)こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるように育てる

①生命(いのち)の安全教育の推進

a 指導の手引きの改訂

- ・より実効性のある生命の安全教育の推進を目指し、「生命の安全教育 指導の手引き」の改訂に取り組んだ。

②人権教育の推進

a 人権教育研修会の実施

- ・人権教育管理職研修会や各種人権教育研修会を通じて、教職員の人権意識の高揚を図り、児童生徒への適切な人権教育を推進した。
- ・学校に対し、「人権教育ハンドブック」、「新版いのち」等の資料の活用を促して、人権教育を推進した。

<人権校内研修会の実施率> 100% <「新版いのち」の活用率> 100%

③道徳教育の推進

a 北九州市道徳教育推進校の指定

- ・「考え、議論する道徳」へと質的転換を図るために、北九州市道徳教育推進校を指定し、指定校において、指導主事が訪問・指導助言等を行い、道徳教育の推進に関する取組支援を行うとともに、研究の成果を全市に発信し、普及を図った。

<指定校数> 小学校:5校 中学校:6校 <訪問・指導回数> 15回

(3)学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくる

①学校施設の維持管理

a 大規模改修工事の実施

- ・施設の長寿命化と年度ごとの費用の平準化を図るため、「北九州市学校施設長寿命化計画」に基づき、小中学校を対象として、計画的に学校施設の改修・整備を行った。

<大規模改修工事数> 小学校:5校 中学校1校 計6校

取組みと成果(令和6年度)

②未来を見据えた教育環境の整備

a 新しい時代の学びを実現する学校の提示

・これからの時代に必要となる新たな学びや社会の変化に対応する新しい小中学校のあり方を検討するため、「北九州市型みらい教育デザイン(案)」を、令和7年1月の総合教育会議で提示・協議した。

・学校規模適正化の更なる取組みの推進と、社会・教育環境の変化、児童生徒数の将来推計の更新時期などを見据え、「北九州市学校規模適正化の進め方検討会」の意見も踏まえながら、令和6年6月に「北九州市立小・中学校の学校規模適正化の進め方」を改定した。

<学校規模適正化の実施状況>

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
2校閉校	1校閉校	—	2校閉校 【次年度 1校開校】	2校閉校 【次年度 1校開校】	学校規模適正化の 進め方の検討・改定	

b 学校施設の改修

・児童・生徒の安全を確保し、安心・快適な学校生活が送れるよう、また特別支援学校および特別支援学級の教室数不足等へ対応するため、計画的に小学校、中学校、特別支援学校の学校施設の改修等を実施し、教育環境の整備を行った。

<トイレ洋式化> 小学校:10校

<バリアフリー化(大規模改修)> 小学校:5校 中学校:1校

<空調機器の整備(特別教室)> 小学校:22校

<特別支援教室の整備> 小学校:32校 中学校:18校

<小倉北特別支援学校等の整備>

③学びの機会の確保

ミッション3(2)③に記載 P.29

④地域との連携

ミッション5(2)①に記載 P.52



トイレの洋式化

(1)こどもを枠にはめず、一人ひとりのこどもの違いを尊重する

①「こどもまんなか」教育施策の推進

a 教育プランの浸透

- ・新たな教育プランの策定に伴って、点検・評価の方法を見直すとともに、教育プランの施策に各課の事業と予算を関連づけて進捗管理を行うことで、教育委員会で統一した方向性を共有し、こどもまんなか教育プランの着実かつ一体的な推進を図る。
- ・教職員への教育プランのさらなる浸透・実践のために、カフェトークを任意参加から悉皆研修へと見直し、受講者の拡大を図る。

＜開催回数・参加者数＞ 全8回・約850名

先生カフェトーク



- ・各学校の重点的取組みを示すスクールプランの必須3項目に、教育プランのミッションに合わせたものを設定し、教育プランの具現化を図る。また、小学校5校、中学校1校を「学びの転換推進校」とし、教育プラン実践の牽引役として、全校への浸透を図る。

b 幼児教育水準の維持向上、幼児教育と小学校教育の円滑な接続

【幼児教育水準の維持向上】

夕方オンライン講座について、より学びを深めるためにシリーズ化し、3テーマ計6回を設定するとともに、受講対象として保育所(園)を追加し、広く周知を図る。

【幼児教育と小学校教育の円滑な接続】

- ・令和6年度は「保幼小連携研修会」の開催時期が令和7年1月であったため、実践発表の内容を年度中に反映させることが難しかった。令和7年度は研修の開催時期を検討し、研修会の内容が反映できるようにする。
- ・令和7年度は新たに「北九州市架け橋プログラム検討会議」を立ち上げ、『「北九州市版架け橋期のカリキュラム」の策定、モデル校区の選定』等を協議する。

(2)こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるように育てる

①生命(いのち)の安全教育の推進

a 指導の手引きの改訂

- ・令和6年度は「生命の安全教育 指導の手引き」の改訂について、従来の指導資料に動画・スライドを追加し、デジタル教材としてパッケージ化することや、教科書改訂に伴うカリキュラム変更を行うことなど、改訂の方針を固めることができた。令和7年度はこの方針に沿って、引き続き「生命の安全教育 指導の手引き」の改訂に取り組む。
- ・「学習指導要領に示されていない内容を含む授業」にかかる指導案についても、他都市の指導案等を参考にしながら作成していく。

②人権教育の推進

a 人権教育研修会の実施

- ・令和6年度は、人権教育管理職研修会や各種人権教育研修会を通じて、教職員の人権意識の高揚を図り、児童生徒への適切な人権教育を推進することが出来た。令和7年度も同様に推進していく。

③道徳教育の推進

a 道徳教育の更なる普及

- ・道徳教育推進指定校において、児童生徒に対するアンケートの肯定的回答の割合が増加しているなど、一定の効果が得られた。令和7年度も引き続き、北九州市道徳教育推進校を指定し、指導主事による訪問・指導助言等の支援を行うとともに、研究の成果を全市に発信し、「考え、議論する道徳」の更なる普及を図る。

＜指定校数＞ 小学校:6校 中学校:7校 高校:1校 ＜訪問・指導回数＞ 15回以上

(3)学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくる

①学校施設の維持管理

a 大規模改修工事の実施

・令和6年度は小学校5校、中学校1校、計6校の大規模改修を行い、概ね予定通りに実施することが出来た。引き続き、施設の長寿命化と年度ごとの費用の平準化を図るため、「北九州市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に学校施設の改修・整備を行っていく。

②未来を見据えた教育環境の整備

a 新しい時代の学びを実現する学校の検討

・令和7年1月の総合教育会議で提示した「北九州市型みらい教育デザイン(案)」の実現に向けて、従来の学校規模適正化から次元を上げ、小中一貫教育の推進を前提にした、新しい時代の学びを実現する学校の具体的な検討を進める。

b 学校施設の改修

・引き続き、トイレ洋式化、学校施設のバリアフリー化やZEB化、空調機器の整備等に取り組み、教育環境の整備を行う。特別支援学級は依然増加傾向にあるため、引き続き整備を行っていく。

・小倉北特別支援学校については、令和7年10月末の建物完成を目指す。

＜トイレの洋式化＞ 小学校:10校 中学校20校

＜バリアフリー化(大規模改修)＞ 小学校:3校 ＜ZEB化(設計)＞ 小学校:1校

＜空調機器の整備(特別教室)＞ 小学校:40校 中学校55校

＜小倉北特別支援学校開校時期＞ 令和8年1月新校舎開校

＜北九州中央高等学園開校時期＞ 令和8年4月新校舎開校

③学びの機会の確保

ミッション3(2)③に記載 P.35

④地域との連携

ミッション5(2)①に記載 P.54

参考指標

	R5(基準値)	R6(実績)	R10(目標)
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答したこどもの割合	小学生:62.5% 中学生:65.1%	小学生:61.5% 中学生:64.0%	小学生:65.0% 中学生:70.0%
学校生活の中で「こわいな」「不安だな」と思ったことがあると回答したこどもの割合	小学生:23.1% 中学生:21.8%	※1	小学生:15%以下 中学生:15%以下
「勤務する学校が、こどもにとって安全・安心な居場所になっている」と回答した教職員の割合	65.5%	※1	85%以上
学校施設老朽化対策事業(大規模改修及び外壁改修)の工事校数	47校 (R1～5年度)	大規模改修:5校 外壁改修:7校 計12校	50校 (R6～10年度)

※1:「こどもまんなか教育プラン」策定のために実施した、全校アンケートでの調査項目。
令和6年度はアンケートを未実施であり、今後アンケートを定期的に実施予定。